

### <第3期の『ここすき!』の様子>

今年度のここすき!も、春の2期生が終了し、9月から3期生がスタートしました。今年度から、市民の皆さんがより参加しやすいように、場所を中央児童館と本町学童保育所の2か所に増やして行っています。開催曜日の都合で、少し遠くても本町学童保育所を選んだ方もいます。本町学童保育所は、周囲を緑に囲まれ、大人も子どももより爽やかな気分してくれます。

登所してくると、朝一番に自分のノートにシールを貼るのですが、シール貼りはみんな大好きです。「もっとはりたい!」と、何度もシールに手を伸ばす子もいるのですが、「これは、友だちの分だからね。おしまいね。」と伝えます。すると、いつまでもぐずっていてもダメだとあきらめ、遊びのスペースへと移っていきます。自ら靴下を脱いで、自分のシールのついたロッカーへしまう姿も見られ、「すごいね!」と、周りの大人たちから拍手。褒められると自分でも拍手をし、うれしそうです。ここすき!で、たくさん褒められたことがうれしくて、帰り道や家に帰ってから上機嫌でした、という声が聴かれました。



様々な遊びの中でも、まずは身体を動かすことを大切にしたいので、『せんたく』という親子のダンスや、『だるまさんが』の絵本に合わせて、楽しく身体を動かします。身体が温まったところで、一本橋を渡って、坂道やトンネルを通り滑り台へと、室内で簡単なサーキットのような体育遊びをしています。お母さんの手を離れて、自分一人で一周できる子もいます。前の友だちが一人でできると、次にやる子も、影響されます。友だちが頑張る姿に、刺激を受け「自分もやってみよう」と、頑張った子もいたようです。友達と一緒に遊び、活動することの重要性を再認識させられます。



主活動が終わり、思い思いに好きなおもちゃで遊び始める子どもたち。お母さんが話をするために子どもたちから離れて集まっても、「お母さん、すぐそこでお話しているからね」と話すと、子どもたちは安心して、自由に遊びだします。その間に、お母さん方と職員との話し合いの時間を設けています。自信や楽観性、忍耐力や社会性といった“非認知能力”を小さいうちから身につけることが、将来にわたってその子の持てる能力を存分に発揮することができるようになると言われていました。週2回のここすき！の場だけでは、限界がありますので、子どもへの働きかけ方に気づいてもらったら、家庭に帰ってからも、同じように実践してほしいと考えています。そのためにも、その日の活動のねらいや、大事にしてほしいことを伝えています。また、聞くだけでなく、お母さん一人ひとりがどう考えるかを、出し合ってもらっています。こちらからの話だけでなく、それぞれのお母さんが自分の子育ての中で大事にしていることを出し合うと、「それって大事ですね。私もやってみようと思います」と、お母さん同士が互いに影響し合っている姿も見られます。毎回顔を合わせていると、お母さん同士も仲良くなっていきます。



まだ、4回を終えたところですが、ここすき！の大人に少しずつ心を開き、笑顔を見せてくれる子どもたち。好きな遊びを見つけ、みんなで一緒に手遊びをしたり、絵本を見るのも楽しめるようになってきました。これから、もっともっと、楽しい遊びを工夫していきたいと思います。

